

現状分析

国の動向

- ・H21.7「MICE推進アクションプラン」を策定
- ・H25.8MICE国際競争力強化委員会の提言書取りまとめ

他都市の状況

- ・全国の国際会議の開催件数は増加傾向で、福岡は全国2位の開催件数(H23年度:221件)
- ・政令市19都市中16都市で、大規模コンベンション(学会・集会)に対応可能な施設を整備

熊本市の状況

- ・国際会議の開催件数は20位程度(H23年度:10件)
- ・大規模コンベンション(学会・集会)に単独に対応可能な施設が無い。現状、ホテル等を活用して大規模コンベンションは開催可能だが、会場費等の面から主催者の負担が増えることから、開催が見送られている。
- ・興南会館の閉館に伴って、市中心部近くに2,000~3,000㎡の展示場が無い。
- ・2,000人規模のツアーコンサートに対応出来るホールが無く、開催が見送られている。



MICE施設整備の必要性

- 1)「国内外から選ばれるコンベンションシティ」を実現するためには、利用者にとって利便性が高く、魅力的なMICE施設の整備が不可欠である。
- 2)多くの政令指定都市では、交流人口の増加や経済波及効果を高める産業インフラとして、大規模コンベンションに対応できるMICE施設を持ち、MICE推進に取り組んでいる。熊本市が政令指定都市としての競争力を持ち、九州中央の交流拠点都市として発展していくためには、MICE施設の整備が必要である。
- 3)市内中心部の大規模コンベンション、イベント、コンサート等の需要は十分にあることから、2,000人~5,000人規模の催事に対応できるMICE施設の整備が求められる。
- 4)桜町・花畑地区を核として中心市街地の再デザインを進める上では、国内外からの集客と高い経済波及効果が期待できるMICE施設の整備は極めて有効である。



オンリーワンの創出

- ・MICE施設を含む桜町・花畑地区の一体的な整備により、公共交通(バス)の拠点であり中心市街地に位置する地理的環境や城下町として栄えた歴史性を尊重し、広がりや場面転換が可能な柔軟性を持つ和を基調とした空間として、熊本城と庭つづきの「まちの大広間」を創り出す。
- ・桜町地区の徒歩圏内には、熊本城に代表される歴史遺産や美術館などの文化施設、2核3モールの商業施設、宿泊施設や公共施設がコンパクトに集約しており、新規MICE施設を整備することにより、中心市街地の回遊性を更に高め、熊本独自の魅力を創り出す。
- ・桜町・花畑地区にMICE施設、シンボルプロムナードや広場、屋上庭園等を一体的に整備し、「人・モノ・情報」の交流拠点として、昼夜を通じて様々な賑わいを創り出す。
- ・MICE施設は、熊本城の眺望を確保するとともに、熊本城と庭つづきの「まちの大広間」のコンセプトを具現化するため、桜町再開発ビルに屋上庭園を設けることで、一体的な利用により来館者に対して充実したおもてなしが可能な他に類を見ない施設とする。

【想定催事件数(ミーティング以外)、経済波及効果】

想定催事		規模	年間想定催事件数(件)	年間想定利用者数(人)	年間経済波及効果		
コンベンション	学会・国際会議	4,~5,000人規模(既存施設と連携)	3	28	46,350	5,761	
		3,000人規模	4				
		2,000人規模	5				
		1,000人規模	6				
		1,000人規模未満	10				
	総会・大会	3,000人規模以上	11	52	73,050	5,784	
		2,000人規模	9				
		1,000人規模	11				
		1,000人規模未満	21				
		小計					197件
イベント	展示会	2,000~3,000㎡までの各種展示会(販売促進展示会、一般即売会)	79	117	96,650	5,250	
		2,000㎡までの各種展示会(フリーマーケット等)					
	イベント	2,000㎡までの各種イベント(こどもフェア、子育てフェア等)	38				87,400
	コンサート	ポップス等のコンサート(2,300人収容程度のホールツアー)					
ミーティング	一般会議、試験、研修、表彰会		1,200件	84,000人			
合計			1,397件	387,450人	16,795百万		

費用対効果における効果:便益(B)

営業余剰	企業の営業余剰の増加効果	} 企業、雇用の利益・所得の増加を新規施設の効果(便益)とみる。計約 69.6億円/年
所得誘発効果	雇用の所得の増加効果	
現在価値換算で10年間分を算出...587億円(B)		

【施設整備費、施設維持費】

項目	費用	備考
施設整備費(①)	289億円	施設整備費(土地・建物関係費、舞台回り工事費・機材等)

+

項目	費用	備考	
施設維持費	エネルギーコスト	1.68億円/年	電気・ガス料金
	給排水コスト	0.57億円/年	上水・下水料金
	維持管理経費	1.62億円/年	小規模修繕工事・点検・整備費
	運営管理費	1.40億円/年	運営・管理経費
	小計(②)	5.27億円/年	
大規模改修工事積立金(③)	3.32億円/年	施設運用期間に想定される費用を、毎年負担した場合の額	
計	②+③	8.59億円/年	現在価値換算で10年間分を算出...72億円(④)

▼

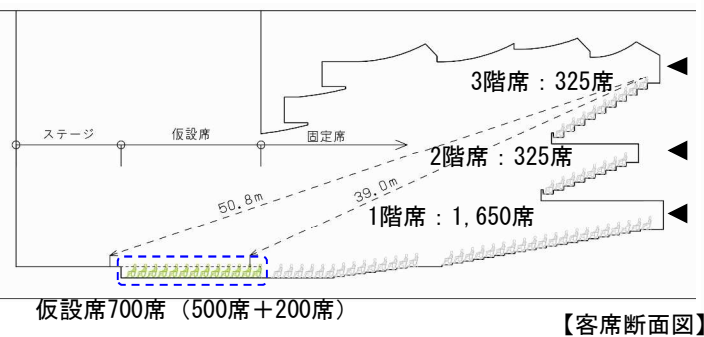
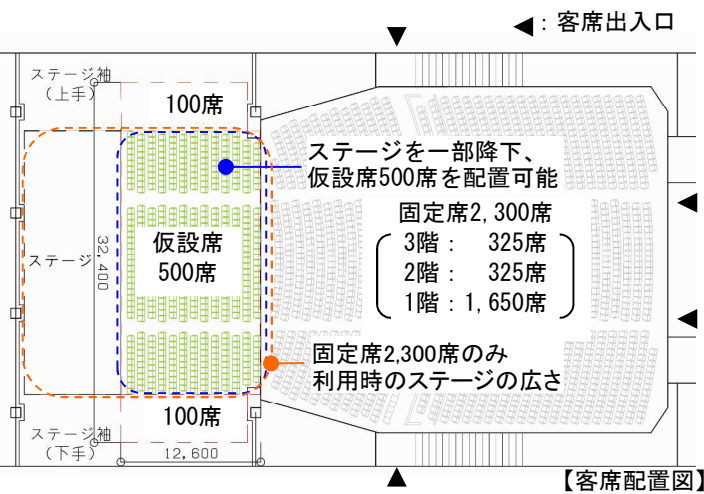
項目	費用	備考
費用対効果におけるコスト(C)	361億円	①+④

【費用対効果】

項目	算出結果	備考
便益(B)	587億円	現在価値換算で10年間分を算出
コスト(C)	361億円	現在価値換算で10年間分を算出
費用対効果(B/C)	1.62	10年間での効果/費用

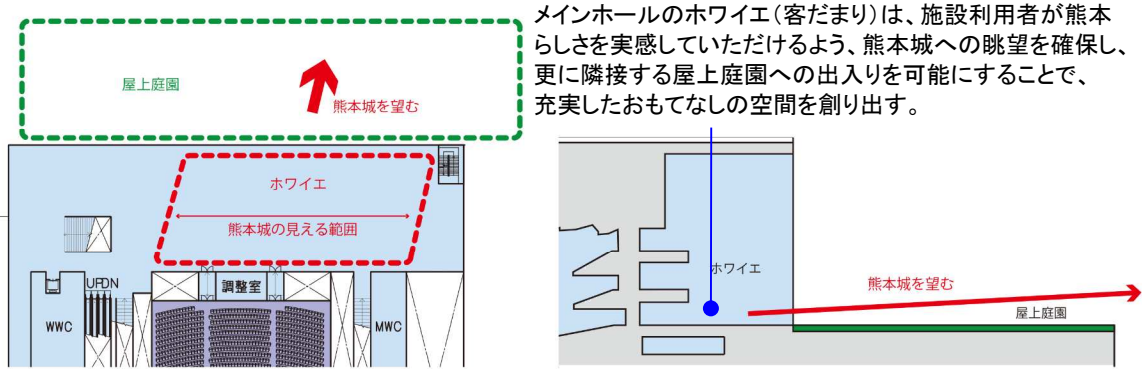
熊本市MICE施設整備基本計画（素案）－概要版－

メインホールゾーン(4F~7F)



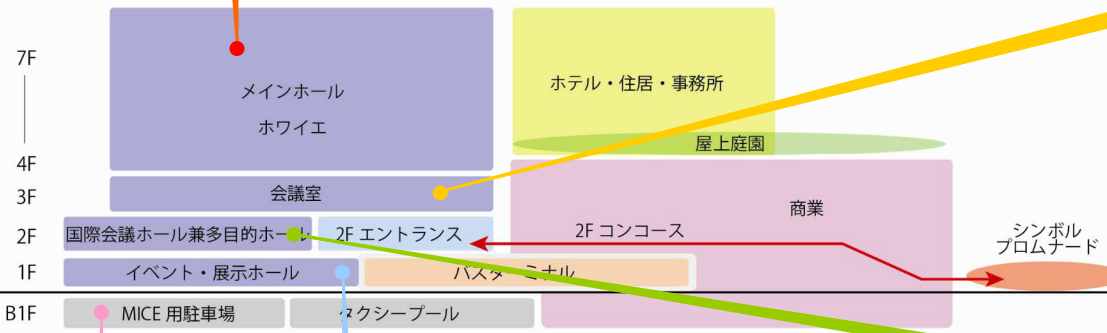
<メインホールの機能>

- ・メインホールは、固定席2,300+仮設席700
- ・仮設席は、ステージの一部を降下させて500席、ステージ袖に200席
- ・ホワイエ(客だまり)は、熊本城への眺望を確保し、屋上庭園への出入りも可能

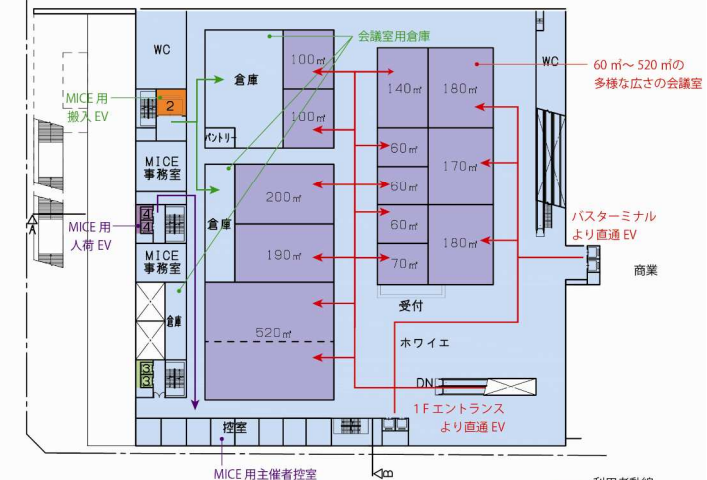


【MICE施設概要】

階数：7階建 高さ：60m程度 面積：33,820㎡程度



会議室ゾーン(3F)



MICE 3F 平面図

<会議室の機能>

- ・会議室は、3Fフロアに大小合わせて13室(2,030㎡)程度配置
- ・中間層へ配置し、他のゾーンと明確な分離を行う。
- ・施設全体を利用する催事では、各施設の控室としての利用も可能

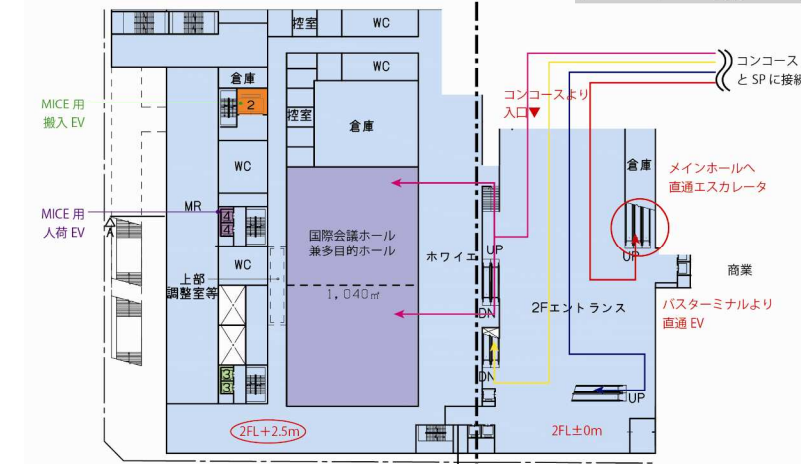
エントランス・国際会議ホール兼多目的ホールゾーン(2F)

<エントランス>

- ・商業施設を通るコンコースを介してシンボルプロムナードと接続
- ・同一フロアに国際会議ホール兼多目的ホールがあり、各ゾーン(メインホール、会議室、イベント・展示ホール)と各々専用エスカレーターとエレベーターでつながれ、各階施設の中継地点になる。
- ・国際会議ホール兼多目的ホールのホワイエとの高低差2.5mを利用することで催事の幅が広がる。

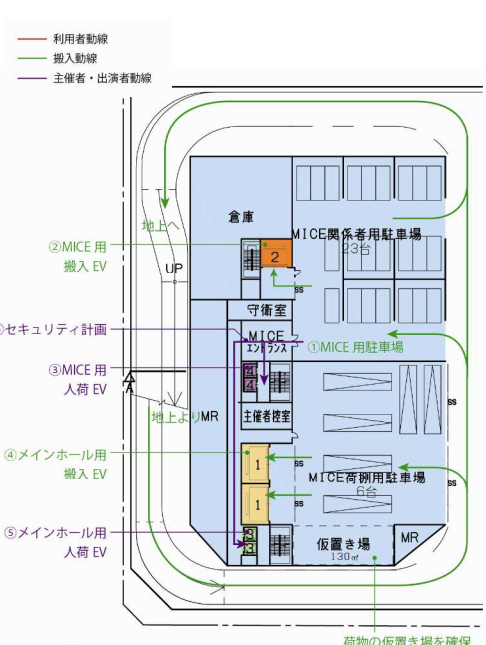
<国際会議ホール兼多目的ホールの機能>

- ・市民活動や様々な催事に対応可能な1,000㎡ホール(分割利用可)
- ・調整室兼同時通訳ブースを設置し、国際会議にも対応可能



MICE 2F 平面図

地下1F



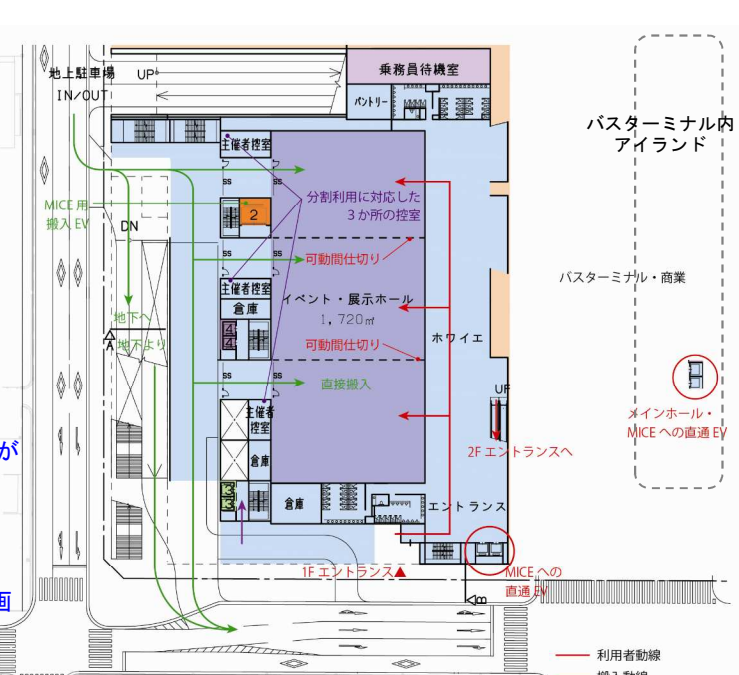
<地下機能>

- ・主催者・出演者の出入口や搬入拠点を地下に配置
- ・メインホール専用搬出入用エレベーターを2基配置
- ・1F~3Fに着床する搬出入用エレベーターを1基配置
- ・11トラック6台分の駐車スペースを確保
- また、併せて仮置きスペースを確保
- ・MICE関係者用駐車場を確保

<イベント・展示ホールの機能>

- ・市民が気軽に利用でき、かつ搬入・搬出等の利便性が高い1階に配置する。
- ・イベント・展示ホールは63m×27m程度の無柱空間
- ・天井高さを7m程度とし、開放的な空間を確保
- ・可動間仕切りにより、最大3分割での利用が可能
- ・式典等での利用を想定してパントリー(配膳室)を計画

イベント・展示ホールゾーン(1F)



MICE 1F 平面図